

当院で初めての特定ケア看護師に 期待を寄せて

飯塚市立病院看護次長 鍋倉多恵

飯塚市立病院の現状

当院は16診療科、病床数250床(急性期一般病棟150床、回復期リハビリ病棟50床、地域包括ケア病棟50床)の2次救急医療機関として運営しています。

2022年4月の救急専門医着任後から救急搬送受入件数は増加の一途を辿り、圏内搬送率は33%前後を推移しています。

2023年4月には地域医療支援病院の承認を受け、9月に病院ヘリポートの運用を開始しました。また、連携先の高齢者施設からの受診依頼時に、軽微な医療行為(酸素吸入、吸引等)が必要な患者をスムーズに受け入れるために、当院の病院救急車で迎えに行く“お迎え救急搬送”の運用も始めました。

特定ケア看護師の誕生

JADECOM NP-NDC研修センターでは厚生労働省で定める21区分38の特定行為研修を2015年に開始しました。これは2015年10月に「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」により保健師助産師看護師法の一部が改正されて始まった研修です。研修を修了した看護師は特定ケア看護師(以下NDC)として手順書に基づき特定行為を行うことができます。

当院でもこの制度に深く関心を示した看護師が1名おりました。津川直也さんは急性期病院で働いていたのですが「地域へ貢献したい」とい



NDC 7期生 津川さん

う志を持ち、特定行為看護師に強く惹かれて2020年4月に当院へ入職してきました。同時に院内では「医師のタスクシフト」が話題になっていましたので、2022年にNDC研修センターへ津川さんを送り出すことができました。研修期間の1年間はコロナ禍のため看護部では人員不足が続いていましたが、地域医療振興協会の看護師派遣制度を活用し、乗り越えることができました。大変な時期ではありましたが、組織や家族の支援を得ながら2023年3月に当院で初めてのNDCが誕生しました。

NDCの活動

NDCは現在、内科、内視鏡、救急部、外科の指導医の下で臨床研修を行っています。毎朝行われる医師とのミーティングでは診療内容や治療方針を確認して、外来や病棟の診療に関わり、NDC研修センターで培った専門知識・技術や臨



病棟にて気切チューブの交換（7期生 津川さん）

床推論力を駆使し、実践を通して経験を積み重ねています。医師と連携が図れ、指導を受ける謙虚な姿勢によって医師からも声をよくかけていただき、特定行為の経験回数が増えていると感じます。

NDC研修センターとオンラインミーティングが毎月行われています。指導者からのアドバイスや他のNDCとの情報交換の場になり、津川さんの横断的な活動を進めていく上で大切な時間になっているようです。

津川さんの活躍は、医師の負担軽減につながります。「お待たせしない医療」を提供することは、患者や家族に高い満足をもたらすことでしょう。当初はNDCの役割や活動内容を知らない職員も多くいましたが、医局会、師長会、医療技術部門、病棟・外来などでの啓発により徐々にその活動範囲を拡げています。地道な努力が実を結び、看護師からACLS研修の依頼を受けて勉強会も開催しました。この勉強会は看護の質を高める良い機会になっています。また、同僚看護師のキャリア形成は看護部全体の動機付けに

つながると考えます。NDCならではの患者との関わりや、安全で効果的な医療の実現は後輩看護師のロールモデルになり得るものと思います。

これからの展望

当院では初めてのNDCであり、医療ニーズに基づき、安全に特定行為を実践するためには環境づくりが重要です。人材育成するには人材確保が必要であり、看護師が研修に臨める体制の構築が私の役割と考えます。

現在当院では、救急医療を強化し災害拠点病院を目指して準備を進めています。組織の変換期にNDCを養成することができ、チーム医療を推進する上で大きな期待を寄せています。NDCは今後、災害医療やへき地医療に携わることもあると思います。まずは当院で研鑽を積み、いつでもどこでも医療や看護の多様な場面で活躍できるように、看護管理者としてサポートしていきたいと思っています。